佳作

わたしたちのけいちゃん

京都府　ノートルダム学院小学校一年　堀田　史佳

わたしは、ふたりのおとうとのおねえさんになりました。よっちゃんは四さいです。けいちゃんは、いま、うまれて四か月です。

けいちゃんが、おかあさんのおなかにいるとき、おとうさんはおかあさんのかわりに、わたしやよっちゃんとあそんでくれたり、おかあさんをびょういんにおくってあげたり、かぞくみんなのためにいろいろなことをしてくれました。わたしもおてつだいをしたり、おとうとのめんどうをみたりしました。

おかあさんは、おなかがどんどん大きくなって、にゅういんしました。わたしは、おねえさんで、あかちゃんがうまれてくるのがうれしいけれども、ないてしまいました。

おかあさんとあかちゃんがいえにかえってきました。かぞくみんな、にこにこがおでうれしかったです。おとうとがふえてうれしいです。

まいにち、ちいさいけいちゃんがなくと、ミルクをのませたり、おむつをかえたり、だっこしたり。わたしは、おふろのときにふくをぬがせてあげたり、ベットからおちないようにみています。けいちゃんは、小さくて小さくて、まめみたいな目でみてくれます。てをギュッとにぎっているので、ゆっくりゆびをひらいていくと、ギュッとわたしのゆびをにぎってくれます。つよいちからでした。

「あかちゃん、うまれたよ。」

と、よっちゃんにいったとき、なきだしました。

「ずっと、ぼくだけのおねえちゃんがいい。」

わたしは、うれしかったけれど、ふたりのおとうととなかよくあそびたいです。

けいちゃんが、みんなのかおをみて、いろんなこえでしゃべります。なにをいいたいのかわかるようになってきました。

「けいちゃん、もっともっと大きくなってね。」